

1. 活動報告（事務局 記）

—10月14日（日）会員は8時に集合して、稲刈りの準備として、机・タープ・シートを設置し、電気柵の移設、かまどの火熾し、ハゼ掛け用の竹の仮置きなどを行いました。9時から稲刈りの説明などをして、稲刈りを始めてもらいました。天気にも恵まれ、少し慣れているのか、10時過ぎには稲刈り・ハゼ掛けを終えることができました。刈未て祭として、お汁粉・おにぎり・沢庵をおいしく頂きました。参加者は、親子自然観察隊20名（親10名、子10名）、二俣瀬子ども会26名（親14名、子12名）、二俣瀬小の先生3名、山大生1名、見学1名、会員21名、会員の子1名で計71名でした。

駐車場の草刈りを朝早くから、渡辺会員が行われました。また松本会員は欠席されましたが、お汁粉の製作・什器の買い出し・他準備を前日行われ、河本会員に託されました。原田会長からおむすびの米の提供が有りました。

—10月20日（土）会員8名が参加し、ため池周辺の草刈り、駐車場の草刈り、東屋横にある檜ノ木周辺の伐採（檜ノ木をシイタケ栽培の原木にする為）の作業を実施しました。作業前には、原田事務局より脱穀、関根事務局長より宇部工業ボランティアについての説明がありました。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎来訪者

予定はありません。

◎行 事

—10月27日（土）ハゼかけ稲の脱穀を予定です。

—11月4日（日）維持活動（草刈り、駐車場草刈り）

—11月17日（土）維持活動 エコアップ

—11月24日（土）親子自然観察隊（里山の暮らし）

3. 来訪者の声

今回はありません。

4. 会員の声 「近未来の食糧難」 (原田満洲夫 記)

「稲作体験」の稲刈りが10月14日に終わり収穫祭を待つのみである。二俣瀬の子ども会の子と保護者や親子自然観察隊の親子会員、多くの体験希望者で約5畝(50アール)の田圃が1時間足らずで、ハゼかけを含む稲刈りが終了した。

もし国難に関わる折の少しでもひもじい思いをさせたくない、戦後の食糧難を生き延びてきた老齢のビオトープをつくる会会員の親心からこのイベントの出発点の一部でもあった。従って出来るだけ会員以外の若い世代にコメつくりの経験を積んで頂きたいものがあります。

世界の人口はどんどん増え特13億人の隣の中国に至っては、一人っ子政策が破たんをきたし現在は毎年、何千万という人口が増えているとか?海洋の魚資源も法規ぎりぎりの乱獲が其の食糧調達の難儀さを物語っている。全世界では、いずれの国も仕事がホワイト化し重労働に値する農業は衰退を待つのみであろう、必ず食糧難の時期が近未来訪れと思われる。

ビオトープでの実に持った「稲作体験」はその時最大の贅辞を浴びることになる

5. 親子自然観察隊 「」 (管 哲郎 記)

稲の生育に合わせ今年の稲刈りは予定より1週間遅らせましたが、幸いにも10月14日(土)は晴天に恵まれ好条件の中、ビオトープ恒例の「稲刈り」が行なわれました。

親子自然観察隊、二俣瀬子供会の親子に宇部市の担当者、二俣瀬小学校校長先生、山口大学の学生さんなど、総勢80名ほどが参加され稲刈りを行いました。

今年の春には田植え前に苦勞して会員により敷地の地ならしを行った為でしょうか、田んぼの排水が良く、歩きやすかったので気持ちよく稲を刈ることができ、作業もはかどりました。予定より30ほど早く稲刈りは終了しました。なれない手つきで幼い子供たちも親に付き添われながら一生懸命に稲を刈ってくれました。

今年の稲の出来は良かったようで、ハゼ干しのため竹に稲をかけたのですが、途中で竹が折れるというハプニングがありました。担当者としては事前の点検が十分でなかったとのことでしたが、たわわに実った稲穂を見るのはうれしい限りでした。年末のお餅つきが楽しみです。

指導者よりのお言葉では、少し危険な刈り方もあったようでしたが、けがもなく無事に稲刈りを終了したことで、来年にはより上手になってくれるでしょうとのコメントをいただきました。

稲刈りが早く終わり、「刈みて」のまかないも30分早くに始まり、「ぜんざい」と「おむすび」の接待があり、親子楽しく皆でいただきました。労働した後の甘いものはとてもおいしく、準備していただいた会員の方々には感謝、感謝でした。ごちそうさまでした。

田植えや稲刈り、年末のお餅つきは大変楽しく有意義な行事ですが、田んぼの管理が年々難しくなっています。稲刈りまでの苦勞は大変で、このままですと来年の田植えもむづかしくなっています。どなたかよいお知恵はございませんか。これが来年よりの課題です。



稲刈りの開会宣言される原田会長



稲刈りの様子

親子自然観察隊の感想

★森山はるか、森山遼太

稲刈りが楽しかったです。鎌一振り、一束を刈るのが難しかったです。はぜかけをするときは稲が重かったです。

★宮本理旺（りお）

初めてカマを使って、はじめは不安だったけど、何回も使っていたら、じゅうずに出来るようになってうれしかったです。

★宮本さやか（母）

家族全員初体験の稲刈りでした。ずっと腰を落として作業がいかに大変なことかよくわかりました。刈り終えた頃、稲一本でさえも無駄にしたいと無意識に拾い集めていました。稲刈りをした日から、子供達ともお米についての話題が多くなりました。お米が出来る過程を見せる事によって、彼らにも感じてもらえたものがあったと思います。貴重な体験が出来る機会を設けて下さり、ありがとうございました。

★有吉遼

稲刈りでは腰がとても痛くなりました。ずっとしゃがむと疲れますが、しっかり働いたんだと実感できました。

★有吉(母)

気持ちのいい秋晴れの中での稲刈り、少し疲れましたが、楽しかったです。作業の後のおしるこは、身にしみるほどおいしかったです。

★平西春奈（母）

稲刈りに参加させてもらって、大人の私も初めての体験だったので子供を連れてできるか心配だったんですが、カマの使い方の説明を受けたら子どもの方がマスターするのが早くびっくりさせられました！！子どももすごく楽しかったみたいで、また来年も体験させてあげたいなって思いました！貴重な体験ありがとうございました。

6. ピオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 (管 哲郎 記)

(34) クモマベニヒカゲ *Erebia ligea*

鱗翅目 タテハチョウ科

高山チョウです、北海道では標高 800m以上、本州では標高 1,800m以上の草地（花畑）に生息します。7月中旬～8月末にみられますが、山口県にはいませんので皆さんにはなじみのないチョウでしょう。しかし、チョウを趣味にされる方は一度はお目にかかりたいチョウとなります。筆者は2016年の夏に、チョウ屋さんに同行し、長野県の上高地に入り、河童橋から穂高岳手前の「岳沢小屋」（標高 2,170m）まで登り、念願のクモマベニヒカゲを撮影することができました。2011年8月にも長野県白馬村の八方尾根（標高 1,800m）に登りましたが、「ベニヒカゲ」しか見当たらず悔しい思いをいたしました。

食草はイネ科、カヤツリグサ科の一部になりますが、やはり年々数を減らしているようで、「準絶滅危惧種」に指定されています。原因は不明だそうです。



クモマベニヒカゲ♀とクガイソウ



クモマベニヒカゲのペア



7. 会よりの連絡事項

稲の最終収穫作業の脱穀と籾摺りを下記、行いますのでご可能な方は参加ください

記-1、脱穀作業 27日午後1時より開始します。脱穀後稲藁の処理・ハゼかけの竹の片づけ・電柵の仕舞等々を行います。

記-2、籾摺り作業 会員の西村さん方に運び込み籾の水分が16%以下であればそのまま籾摺り(臼ひき作業)を行いますが16%以上であれば空気乾燥か熱風乾燥をのどちらかを行いあくる日(28日)朝からこの作業となります。

記-3 収穫祭に向かつての作業 (12月8日午後準備 12月9日日本祭)

精米をコイン精米機で行います日程については餅つきに近い時期がベターですが、都合をつけて行います。

8. 編集後記

今年も無事に稲刈りを終えました。二度の台風にも耐えて、倒れることもなく、順調に育ってくれました。しかし、夏場は水不足で、事務局の原田さんは、地元の農家さんと水の分配や水漏れの補修などで大変苦労されました。地元で応急処置となると、やはり二俣瀬の会員に頼りえずで、年間計画があっても夏場は参加者も少なく、草刈りなども一部残り、これらも地元の会員に頼っています。今月で、里山ビオトープをつくる会も19年目に入りました。維持管理だけでもやっとな状態で、来年も稲作は出来るのでしょうか。今年もあと残り少なくなってきましたが、会員の皆様は、よく考えて頂き、来年の計画を話し合わなければいけないかなと考えています。

(原谷 一誠 記)